

リトアニア政治・経済月間情勢(12月)

概況

- 8日～9日、トルコを公式訪問したグリボウスカイト大統領は、エルドアン・トルコ大統領と会談したほか、リトアニア・トルコ間のビジネス・フォーラムに出席。
- 16日～17日、第3回中欧・中国首脳会合出席のためベオグラードを訪問したブトケビチュウス首相は、李中国首相と二国間会談を行った。
- 22日、3名の国会議員が台湾訪問を予定していたが、国会は、ブトケビチュウス首相がベオグラードで行われた第3回中欧・中国首脳会合に出席し、李中国首相と二国間会談を行ったばかりであることに配慮し、一旦認めたこの台湾訪問の予定をキャンセルすることとした。

内政

【2日】約500人の教員が給与の増加を求めてストライキを開始した。

【4日】国会において来年の国家予算案の改定案が可決された。来年の国家予算の歳入は、2014年の歳入に比べて6%増加することを見込んでいる。ブトケビチュウス首相は、来年の国家予算の優先事項として、国家の防衛及び安全保障を高めること、最低労働賃金の引上げ、年金の補償、政府機関で勤務する者に対する給与の引き上げなど、経済成長を促進するものとなっていると述べた。

【8日】法務省と特別調査局は、2015年～2025年の国家腐敗防止プログラムを作成。リトアニアにおいて、国民の約30%が賄賂を贈っていることから、これを約10%まで下げることを目標としている。また、賄賂を受け取ってもいいと考えている国民は約55%であり、これを約33%まで下げることを目標としている。

【9日】内務副大臣に任命されたノルケビチュウス氏(Mr. Arturas Norkevicius)が任務を開始した。ノルケビチュウス氏は、副大臣の職に就く前は内務省矯正局局長として勤務していた。文化副大臣に任命されたポデリーテ氏(Ms. Patricija Poderyte)は、15日より任務を開始した。

【10日】ブトケビチュウス首相は記者会見を行い、現政権のこれまでの2年間の取り組みについて発表。同首相は2015年後半にスウェーデンとの電力網NordBaltのオープニングを計画しているほか、2015年12月にはポーランドとの電力網LitPol Linkが稼働し始める、リトアニアとポーランドのガスパイプラインの準備及び建設を含む他の戦略的なエネルギープロジェクトに対し9,700万ユーロのEU資金を受けていると述べた。

【11日】2012年12月13日、ブトケビチュウス首相政権が正式にスタートしてから2年経過。現在までに大臣14名中6名が交代している。このうち4名は解任され、残りの2名は保健・食品安全担当欧州委員となったアンドリュウカイトス前保健大臣と欧州議員となったマズローニス前環境大臣であり、両氏は現在ブリュッセルで任務に就いている。

【12日】グリボウスカイト大統領は、戦争を煽るようなプロパガンダを放映した放送局及び再放送を行う会社は罰せられるべきであるとして、法の改正を求めた。この改正法案は、戦争を煽るようなプロパガンダを放映した場合、その放送局及び再放送を行う会社に対し年間収益の3%以下の罰金が科せられるというもの。グリボウスカイト大統領は、現在、リトアニアは情報戦争の中にあるため、新しい措置が必要であると述べた。ロシア語番組を視聴しているリトアニア国民は全体の15%に上る。

【15日】政府は、保健省下に自殺を防止するための担当局を設置。来年1月1日より同局による取り組みが始まる。統計データによると、リトアニアにおける自殺者数は年間約1,000人に上る。

【18日】ブトケビチュウス首相の非常勤顧問を務めていた4人(Mr. Mantas Nocius, Mr. Kazimieras Lukauskas, Mr. Darius Remeika, Mr. Martynas Skorupskas)が、多忙であることを理由に首相の非常勤顧問を辞めることとなった。

【19日】新しい国家観光局局长にカズラウスキエネ氏(Ms. Jurgita Kazlauskienė)が任命された。カズラウスキエネ氏の前職は、リトアニア・スパ協会会長兼欧州スパ協会副会長。

【23日】政党と政治家の支持率に関する世論調査が発表された。

社会民主党	21.8%	(前回11月 24.5%)
祖国同盟	10.2%	(8.3%)
秩序と正義党	7.9%	(9.8%)
労働党	7.8%	(8.2%)
リベラルムーブメント	7.2%	(6.2%)

国民の利益を最も代表している政治家

グリボウスカイト大統領	24.6%	(25.6%)
ブトケビチュウス首相	13.8%	(12.7%)

個々の政治家について支持するか否か

グリボウスカイト大統領	60.6%	(66.1%)
ブトケビチュウス首相	55.8%	(57.7%)
グロウジニエネ国会議長	28.7%	(33.5%)

外 交

【1日】グリボウスカイト大統領がロシアをテロリスト国家と呼んだことについて、ネベンジャ露外務次官は、「グリボウスカイト大統領は、外交的ではない発言をした。大統領はこの発言が我々の協力関係に影響があるかもしれないことを理解しなければならない。ロシアとリトアニアの関係は、他のバルト諸国との関係よりも発展している。リトアニアは我々に大きく依存している。当然、グリボウスカイト大統領の発言は協力関係の発展を促進することにはならない。」と述べた。

【2日】同日付ウクライナ大統領令によって、ウクライナ国籍を取得したリトアニア出身のアイヴァラス・アブロマヴィチウス氏(Mr. Aivaras Abromavicius)が、ウクライナの経済発展・貿易相に任命された。38歳の同氏は、今回、ウクライナ国籍を取得することでリトアニア国籍を失うこととなった。3人の子供たちはリトアニア国籍のままとなる。

【3日】ベラルーシのためにスパイ行為を行ったことで、2014年1月24日に拘束されたリトアニア国籍者に対する裁判が開かれることとなった。この容疑者は、リトアニア軍の救急医療隊員として勤務し、軍事情報、軍事設備、NATO軍事活動など、様々な情報について情報収集を行っていた。刑事裁判所によれば、同容疑者は3年～15年の刑に服する可能性がある。

【4日】バーゼルにおいて、リトアニアのイニシアティブにより、OSCE外相理事会に出席するために集った8カ国の外相などが参加して、クリミアの人権侵害や不法な併合に対し国際社会の注目を集めるための会合が開催された。クリミア・タタール人のリーダー、ムスタファ・ジェミーレフ氏(Mr. Mustafa Dzhemilev)及びクリミアにおけるウクライナ・ロシア人権団代表のアンドレイ・ユロフ氏(Mr. Andrey Yurov)との会合が行われた。

【6日】バルト海の公海上を飛行する軍用機を伴ったロシア連邦の軍用艦の一団が観測され、7日、3件のロシア軍用機の飛行に対してNATO戦闘機が緊急発進している。

【6日～11日】ユオトカ国会外交委員会委員長、アジュパリス国会外交委員会副委員長、パウラウスカス国会安全保障防衛委員会委員長、ジングリス国会欧州委員会副委員長の国会代表団が訪米し、米上下両院の関係者などと面会。

【8日】バルト諸国国境において、ロシア軍用機30機が確認され、これを追尾するためにNATOバルト領空監視ミッションの戦闘機が8回発進した。8日～9日、バルト諸国国境付近において、ターボ・プロペラ爆撃機(Tu-95)4機、超音速爆撃機(Tu-22)2機の計6機の戦略爆撃機を確認した。10日、ロシア軍用機26機が確認され、これを追尾するためにNATOバルト領空監視ミッションの戦闘機は6回発進した。また、8日～14日、バルト諸国国境付近において、30機のロシア戦闘機(Su-27、Su-24、Su-34、Mig-31)とともに輸送機及び偵察機が確認された。追尾されたすべてのロシア軍用機は、バルト海の公海上でロシア本土・カリーニングラード間を飛行していた。

【8日～9日】トルコを公式訪問したグリボウスカイト大統領は、エルドアン・トルコ大統領と会談したほか、リトアニア・トルコ間のビジネス・フォーラムに出席。訪問中に、欧州統合における協力に関する覚書と経済貿易共同委員会の設立に関する宣言についての署名が行われた。

【11日～12日】ラトビアのツェーシスにおいて、バルト諸国及びポーランド国防大臣による会合が行われ、国防大臣らは地域におけるロシアの行動に合同で対応することに同意した。

【12日】当地ヴァカロ・ジニオス紙によれば、グリボウスカイト大統領の過去について書かれた書籍「Red Dalia」(英語版)が、欧州議会議員全員のポストに配布されていた。著者であるジャーナリストのヤヌティエネ氏(Ms. Ruta Janutiene)は、同書籍が英語に翻訳されていることも知らなかったと述べた。この書籍のリトアニア語版には、グリボウスカイト大統領のKGBとのつながりの可能性や共産党に入党していたことなどについて書かれている。

【15日～21日】バルト諸国国境付近において、ロシアによる軍事活動が観測され、このロシア機を追尾するためにNATOバルト領空監視ミッションの戦闘機が一度緊急発進した。

【16日～17日】プトケビチュウス首相は、ベオグラードにおいて開催された第3回中欧・中国首脳会合に出席。同首相は、リトアニアは投資に門戸を開いており、リトアニア市場は拡大しており、信頼できるものである、2014年上半期の統計は、リトアニアが、中東欧地域の中で外国投資を最も多く呼び込んでいる国であることを示している、リトアニアは、バイオテクノロジー、ITシステム、顧客サービス及び再生可能エネルギー分野に優れており、17カ国による同会合がこの分野における協力及び投資促進の更なる一歩になると確信していると述べた。

【16日～17日】第3回中欧・中国首脳会合出席のためベオグラードを訪問したプトケビチュウス首相は、李中国首相と二国間会談を行った。プトケビチュウス首相は、二国間の経済関係において特に重要な分野は運輸と農業である、中国に対し欧州とアジア間における統合輸送システムを構築する計画があることをもっと考慮して、クライペダ港のインフラと貨物列車Sunをより一層活用するよう促したいと述べた。

【17日】グリボウスカイト大統領は、来年1月のダボスで開催される世界経済フォーラムへの招待を受けて初めて出席することとなった。アダムクス前大統領はこのフォーラムに3回出席している。

【17日】リトアニアにおけるCIA収容所の存在疑惑について、検事総長室に特別調査グループが設置され、現在、記録文書の分析が行われている。

【19日】ブリュッセルにおいて開催された欧州理事会に出席したグリボウスカイト大統領は、時事問題やウクライナ情勢についてEU首脳と協議を行った。大統領は、ウクライナ政府は、ウクライナの平和と安定を取り戻すだけでなく、ウクライナとウクライナ国民の幸福のために必要とされる改革を責任を持って実施するという重要な任務がある、ウクライナ改革全般の成功は、汚職を根絶するウクライナの能力にかかっている、ロシアとのいかなる制裁緩和または対話も、ミンスク合意が守られ、ウクライナの領土一体性が回復された場合にのみ可能となると述べた。

【22日】3名の国会議員が台湾訪問を予定していたが、国会は、プトケビチュウス首相がベオグラードで行われた第3回中欧・中国首脳会合に出席し、李中国首相と二国間会談を行ったばかりであることに配慮し、一旦認めたこの台湾訪問の予定をキャンセルすることとした。

【22日】ポーランド製対空ミサイルシステムGROMの最初の貨物がリトアニアに到着。オレカス国防大臣は、このシステムは、空襲に対し、リトアニア軍隊及び標的となる対象物の防衛を強化するものであると述べた。

経 済

【8日】リトアニア食料獣医サービス局によると、エジプトがリトアニア牛肉の輸出に対し市場を開放した。

【11日】リトアニア中央銀行は、来年のGDP成長率を0.2%下方修正し、3.1%と予測した。

【13日】最新のリトアニア統計局データによると、2005年～2014年において行われた調査の結果、世界におけるリトアニア人の人口は、約360万人に達する。そのうち約300万人がリトアニアに居住、約60万人が海外に居住している。海外に居住するリトアニア人が最も多い国は、英国(20%)、ロシア(14%)、ポーランド(10%)の順となっている。

【15日】バルトニュース通信は、リトアニアからベラルーシを経由してウズベキスタンに輸送される1000トンのバターが、ロシアがベラルーシ経由の輸送を認めないため立ち往生していると報じている。

エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【5日】エストニアで開催されたバルト3国首相会合に出席したプトケビチュウス首相が、共同記者会見においてビサギナス原発建設プロジェクトに関して、戦略的投資家である日立製作所と地域パートナーであるラトビアとエストニアとの協議を加速させると発言。

日本との関係

【10日】日本大使館は、天皇誕生日祝賀レセプションを当地ホテルを会場として開催。プトケビチュウス首相を含む当地の政財界、文化・教育関係者など約400人のゲストが参加。

【12日】リトアニア報道記者委員会が毎年恒例で行う本年18回目となるベスト・カー・オブ・ザ・イヤーに、日産の「Qashqai」が選ばれた。この自動車は、最も安全な自動車、家族のための自動車にも選ばれた。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。